

標 題： Dietary Patterns and Risk of Breast Cancer in the ORDET Cohort  
ORDET コホートにおける食事パターンと乳癌のリスク

---

著 者： S. Sieri, et al. (イタリア 国立腫瘍研究所、米国 ニューヨーク州立大学)

---

掲 載 誌： Cancer Epidemiol. Biomarkers Prev. 13(4): 567-572 (2004)

---

要 旨： この研究の目的は、食事パターンと乳癌の発症リスクとの関連をイタリア人のコホートで評価することであった。

女性ボランティアを、1987 から 1992 年まで癌記録がされている北部イタリアのバレーゼ州で募集した。参加者は半定量食事頻度アンケートを完了し、身体計測および他のデータを系統的に収集した。

平均で 9.5 年間追跡した女性 8984 人および乳癌 207 症例からの栄養データを用いて、主な食事パターンを確認するために我々は探索的因子分析を実施した。

分散の 30%を説明する 4 つの食事パターンが現れた：サラダ野菜（主に生野菜とオリーブ油で構成される）、西欧（主にポテト、赤身肉、卵とバターで構成される）、学生食堂（パスタとトマトソース）、および良識的（調理野菜、豆類と魚、そしてワインと蒸留酒を減らす）。

交絡因子の補正後に、サラダ野菜パターンだけが有意に低い乳癌発症率と関連し(RR=0.66、CI<sub>95%</sub> = 0.47 - 0.95 (±は - の誤植)、3 段階で最高と最低を比較)、有意に直線的な動向であった(P=0.016)。

BMI が < 25 の女性はサラダ野菜パターンの最高群でさらに大きなリスク低下をし(最低群より > 50%のリスク RR=0.39、CI<sub>95%</sub> = 0.22 - 0.69)、有意に直線的な動向であった(P=0.001)；しかし BMI が ≥ 25 の女性では、サラダ野菜摂取の予防作用はなかった。

この結果から、生野菜とオリーブ油が多い食事は乳癌を予防すると示唆される。

---